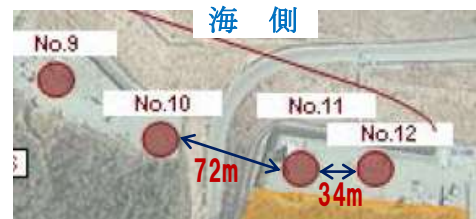


福島第一原発揚水井No.9～12のトリチウム濃度挙動 汚染原因は未だ説明せず 海洋放出は直ちにやめよ

2015. 5. 27 美浜の会

福島第一原発の揚水井挙動について、昨年8月初旬頃まではNo. 12のトリチウム濃度が俄然優勢であった。ところがその後No. 12濃度は低下している。他方、それと気脈を通じるように、まずはNo. 11が、次いでNo. 10の濃度が上昇傾向を示している（下図）。

右図を見ると、No. 12とNo. 11の間は狭く（約34m）、No. 11とNo. 10の間は広い（約72m）。No. 12が示す濃度はその周辺の狭い範囲を代表し、No. 10が示す濃度は低くてもその周辺の広い範囲を代表していると考えられる。そうすると、下図から推察されるように、昨年8月初旬までNo. 12に流れ込んでいたトリチウムがNo. 11からさらにはNo. 10の領域にまで拡散している。特に今年になってからは、トリチウムはむしろ主にNo. 10に流れ込んでいるのが分かる。このようにして、揚水井に流れ込むトリチウム量はけっして減少しているわけではなく、その原因は相変わらず不明のままである。地下水の上流側のタンクの漏れが原因であるとは考えられない。



もう一つ注目すべき点は、揚水井のくみ上げポンプが頻繁に故障停止していることである。下図のグラフがゼロとなった区間がそのことを示している。No. 9～No. 12で、昨年10月から計6回、No. 11とNo. 10は各2回で、No. 10は現在もまだ停止している。くみ上げが停止している分、海洋への流出が増えているはずである。ポンプ内に水藻や泥などが溜まる傾向は避けられないために、今後ポンプの停止傾向は一層強まるに違いない。

地下水が汚染されている原因も確かめずにただポンプでくみ上げて海に流すような「対策」は、この面からも抜本的に見直すべきである。海洋放出は直ちにやめよ。

